



夢と現 (アブジェクション)

おき 起よひかりを<sup>はな</sup>發て<sup>ひかり</sup> なんちの光きたりエホバの<sup>えいくわう</sup>榮光なんちの<sup>てりいで</sup>うへに照出たればなり

—イザヤ書第60章1節—

Arise, shine; for thy light is come, and the glory of the Lord is risen upon thee.

—ISAIAH CHAPTER 60:1—

# 新生

第 46 巻  
冬 号  
新生会広報

## 夢と現実の構図 萩原敏孝

東日本大震災と同時期、私は五年ほどの間に四人の家族を亡くしました。高齢の両親と五〇代の兄そして妻、次々と起こる肉親との別れに、自分のいる場所が夢なのか現実なのか分からなくなるほど、私の思考は混乱と停止を繰り返していました。

そのような中で出会ったのが、ネガティブケイパビリティという言葉です。ネガティブケイパビリティとは、『答えのでない対処しようのない事態に耐える能力』『未解決なものを受容する能力』『すぐに証明や理由を求めず、不確実さ、不思議さ、懐疑の中にあることができる能力』のことです。無理に答えを出さず、意図的に心を柔軟に保ち対象の本質に深く迫り共感に至ろうとするネガティブケイパビリティの考えに触れ、私は次第に癒され平静さを取り戻していききました。

今回掲載された作品は、以前観た映画『ひろしま』と、たまたま翌日に行った丸木美術館にて位里さん俊さんの作品を鑑賞した時の思いが動機となつていきます。凄惨な戦争の中でも人々が希望を捨てないで持ち続ける姿に圧倒され、心に浮かんだ風景を突き動かされるように描きあげました。その時から、目を背けたくなくなるような現実を形に残したいという思

いが、私の作品の骨格になっています。最後の大战から七〇年以上が過ぎ世界中にコロナ禍が始まり、収束し落ち着きを取り戻したように見える中でウクライナ侵攻が始まり国内には貧困や犯罪が増え、人は常に対処しようの無い事態に巻き込まれながら生きています。

答えの無い、夢のように曖昧な中で思考し働きかけて行くことによりいつかどこかで何かが繋がりが新しい地平と現実が拓かれる…。私は、それを期待しつつ視覚的に表れてくれればと制作を続けています。戦争や自然災害で亡くなられた御霊に対してご冥福をお祈りします。

### 萩原敏孝

一九五七年、群馬県高崎市（旧群馬町）生まれ。  
一九八四年、東京藝術大学大学院修了。一九九五年、国展国画賞受賞。一九九六年、国展新人賞受賞。文化庁現代美術選抜展。一九九九年、国展安田火災美術財団奨励賞受賞。二〇〇〇年、第一九回安田火災美術財団奨励賞展優秀賞。二〇一九年、個展（ノイエス朝日）。二〇二二年、群馬県美術展会員賞受賞。  
他、個展・グループ展多数。現在、国画会会員、群馬県美術会理事。

### 大海の一滴

世を思い人を思う

思いに思えども

つくすところ少し

与えんとしては受け

愛せんとしては愛せらる

恩愛にはげまされ

身をつくせども

大海の一滴に似たり

後藤静香著

『天よりの声』より



原 慶子

#### イエスの十字架と復活

「一人の人間として美しく生きること」「一人の人間として社会的に良い仕事をする事」。私は成人してからずっとこの二つの側面、すなわち「個人として美しく生きること」そして「社会的使命を担う人間として、新生会コミュニティを神のみ心になつた事業として成長させること」を精神軸として歩んできました。今では、これからも後者が、私にとつては、最重要課題になっています。

私はすぐれた芸術家の友人たちと親しい交わりを続けています。彼らは、宇宙の声を聞き、地球の自然と対話し、彼らの魂から湧き出すイマジネーションを各々のアートとして表現していきます。芸術家のアートは、一人の人間の想像力によって形になります。一方「社会的使命として為される事業」は一人の仕事ではありません。事業体として様々な人間が各々の役割を担い、実践することによって事業が成就していくのです。しかしそれだけでは起動しないのです。事業の根幹となる「創業の精神」と「ヴィジョン」を基として始めて事業の目

標が定まるのです。創業の精神もヴィジョンも、それらを創るのは一人の人間です。新生会の創業の精神を確立したのは、創業者 原正男の祈りであり、未来ヴィジョンは後継者によって示されました。すなわちそこが事業体と個の芸術創造の違いです。そのことが分つた時「個人としての芸術創造」も「事業体としての神のみ心の実現」も根本的には同じだと考えるようになりました。ここに至つて、「宇宙」の存在が、個人の魂に、事業体のヴィジョンに自覚された時、個々の芸術作品も、事業体の在り様も「本物」として、地球における「真・善・美」を体現したものになるのです。

「真」とは「神のみ心（自然）」になつた真理」であり、「善」とは神の愛になつた行為」であり、「美」とは「命を内包した光輝く存在・形」であると思います。

新生会に集う一人一人が、各々の魂の中に「真・善・美」を内包し、そこから己の「真・善・美」を発信してゆくこと。魂の言葉が失われてしまった社会状況において、新生会に集う一人一人にこの認識が求められています。今年こそ、復活です。イエスが十字架の死から復活したように、新生会の一人一人も、己の復活を信じましょう。

『人の歩みは顔に出る』。『顔』は、私たちの身体の部位で最も多く動き続ける中『シワ』がつく。その人の『考え方』や『価値観』までも示す『刻印』でもあります。

『考える』は、その人の心を『想い』につなぎ、「知識と経験」に照らし合わせ、表出する行為。この行為は、私たちが地上での生ある間、常に続けられるが故に、その『かたち』も、同じものが存在せず、しかし「時に共通項が多く見られる」不思議な性質を持っています。

生まれわたの赤ん坊は「全身ツルツル」。その『無垢なかたち』に「どう考え、生きるか」が加わり、少しずつ「その人なりの形」が形づくられてまいります。

ツルツルだったものが、いつの間にか凸凹に。そう考えると「人生は『金平糖』の様だな」と、私などは感じる事も、多くございます。

物理学者で、夏目漱石氏から俳句を学び『吾輩は猫である』水島寒月のモデルともされる、日常の中に潜む『物理（一つの現象が他に影響を起こす「波紋」）を随筆として述べた、寺田寅彦氏の『金平糖』は、金

平糖にツノがある話から始まり、最終的には『生命の起源』にまで論が広がってまいります。

金平糖は、まん丸でツルツルの「芯」を「斜めに回転する鍋」に入れ、砂糖蜜をかけ続けること約二週間ほどで完成する菓子です。

「ツノが立つ」のは『偶然』。滑らかな芯に「偶々何かが付き」凹凸が発生、尖った部分が凹部分より早く成長する為、同じ形の金平糖は、二

なたらしきの源』ではないでしょうか。

それぞれ今ある『凸凹』こそ、『あなたが生きて歩んできた証』そのものであり、それは誰も否定することのできない『美しいオリジナルの金平糖／主へ誇るタラントン』となります。

とは言え、私たちは常に『流れ去る刻の波の中』で強制的に転がされ続けている、という現実もあり、『諸行無常の儚さ』に心痛んでおられる方も多いかもしれません。

論 壇 『金平糖とタラントン』 高井 賢

つと存在しません。

私たち『ヒト』も、最初、この世界に来た時は「ツルツル」。

一人一人が『「タラント」』として、等しく生を受け、転がり続けて「現在」があります。

「転がる」に必要なのは『傾き』。安定の状態では「動き始めない」。その「転がるキツカケ」、人によつては『つまづき』や『気づき』となった事柄こそ『あなたの起源』であり、現在の『あ

『苦勞がその人を形づくるのか?』

筆者は『愉しみ』こそ「その人を著す特徴」だと考えております。

現在も精力的に小説執筆を続けておられる、村上春樹氏。彼は『神宮球場で野球のデイゲーム観戦中に、ビールを飲みながら』小説を書こう！と決心、デビュー作『風の歌を聴け』を執筆されたとか。

その人の中に『溜まりまくったナニか』が、決壊し「動き始める」。そして、破壊ではなく『何かを作ろう!』になるのは『楽を感じる刻』なのでしょう。

そして、その『感じる』を司るのが、あなたの『人生』。金平糖のように『それぞれ異なるオリジナル』になるからこそ、主に与えられた『いのち／タラントン』は『をかし』となり、人の世は彩り続けられるのです。

金平糖の『完成』は『食べる状態になった時』。人も『完成に近づく』ほど「その人自身の芯」が顕にされ易くなります。

『完成／タラントンを示す刻』 あなたは何をあらわしますか? 恐れず愉しみながら歩んでまいります。



新型コロナウイルスによる臨時特集⑬

真理は人を自由にする

『わたしの言葉に留まるなら、あなた方はまことにわたしの弟子である。あなた方は真理を知り、真理はあなた方を自由にする』。  
（ヨハネによる福音書8・31〜32）

原慶子

## 人間はなぜ戦争をするのか

コロナパンデミックは武器を使わず、細菌によるサイバー戦争（インターネット及びコンピュータ上で行われる戦争行為のこと）ではなかったのか？今やニュースとしては影を潜めている「新型コロナウイルス」も「ワクチン」問題も、今の方がその問題点の深さを一人ひとりの人間に担わせようとしているように思われる。世界中に蔓延した「COVID19」は、沢山の人間を死に至らしめ、今もなおその後遺症に苦しんでいる人たちが沢山いると聞く。コロナパンデミックは底知れず世界中の人々を巻き込んだ邪悪な社会問題であるにも関わらず、物理的な暴力を使わずに一人ひとりの人間に対する感染症という形で人々を戦争に巻き込み、その真の正体もよってきたる真の要因も人々の認識から隠蔽した。問題を個人的事柄として処理しようとしたのである。人々の、新型コロナウイルスという新しい感染症への恐怖は、政府機関の徹底的な行動制限により一層深まり、人々は何もかも行政機関の行動制限に

従った。街から人々の姿は消え、人間ではないロボットが増えていった。人々のコロナ恐怖は「健康第一教」という新興宗教に惹きつかれていった。今や二〇二三年一月二月「健康第一教」は人々を心理的には掌握し、人々も居心地の悪さを感じながらも、恐怖ゆえに自身の真実の気持ちを抑え、行動を控え、行動制限時の注意事項（例えばマスクなど）を今だ守り続けている。

そうこうしてコロナパンデミックの最中、二〇二二年からロシアとウクライナが戦争を始めた。二〇二三年秋からはイスラエルとハマス（パレスチナ）も戦争を始めた。ミャンマーやアフガニスタンなどでは軍事政権によって民主主義が脅かされている。どちらを向いても今、世界中で主権者たちは争いに熱中している。これらの戦争は建物を破壊し、殺害を正義の名の下に行っている。まさに武器を用いた暴力戦争である。時の主権を握る強欲資本主義者たちは、コロナ戦争ではデジタルテクノロジーに本心を隠し、あたかも善の政治を行っているかのように振舞った。現在の軍事力を背景にした暴力戦争は、露骨な「エゴ」の応酬である。新自由主義は強欲資本主義

の極限であるが、今や彼らには自分の利益、権益、利権しか見えていないのである。彼らに主権を持たせて置く限り、この地球上から戦争も争いもなくならないのではなからうか、ああ、どうしたらいいのだろうか？

## 「真理は人を自由にする」

コロナ戦争は、人々の行動の「自由」を奪い、細部に至るまで「形式」を強化しました。私は生まれつき「わたしの主人公はわたしである」と思ってきたので、コロナ強制を受け容れることが出来ませんでした。そして私は、自分の魂の自由はコロナといえども決して奪うことはできないと確信いたしました。私の自由への渴望は、いつの間にか宇宙への愛となりました。自由な魂から育まれる宇宙への愛の中で、私は真底満たされていきました。あの満ち足りた気持ちはどこからくるのか？それは神さまがくださったのです。

『天のお父さま、お父さん、お母さん、おはようございます。一人一人の幸せを祈り、新生会の働きが神の御心にならって行われますように。新生会に働く一人一人の魂に、喜びと美とヴィジョンを育んでくださいますように。これら全ての思いと感謝と祈りをイエス様の御名を通して、あなたの御前に心よりお捧げいたします。アーメン』これは私の朝の祈りの一部です。祈りとは、神との対話であると思っています。神

様はイエス様を通して日々の私の祈りに対してレスポンスをしてくださいます。それらは私の魂に閃く御言葉です。いずれにしろコロナ戦争で世が息苦しくなればなるほど、私の魂には神の愛が溢れ、いつの間にか、私の魂は天国と地上を行ったり来たりしていました。天国から地上を眺めると、悪魔の誘惑にはまって右往左往している人間たち、私は彼らに深い憐みを感じます。今地上で起こっている多くの事柄は、神の御心に逆らった奴隷根性から引き起こされているのです。

冒頭の聖書の御言葉『真理はあなたたちを自由にする』の『真理』とは、「学問上の真理ではなく、イエスのもたらした『神の啓示』、また啓示者であるイエズス自身を指す」（フランシスコ会新約聖書）。そうなのです。イエスは神の御子としてこの世に誕生しました。イエスの言動は、時の権力者たちに恐怖を抱かせました。時の権力者はイエスの『真理』（福音）を理解することはできませんでした。イエスはついに彼らと彼らに追隨する愚かな群衆によって十字架に磔になりました。それを祈るイエスのゲッセマネにおける祈り『アバ、父よ、あなたにはできないことはありません。わたしからこの杯を取りのけてください。しかしわたしの思いのままにはなく、おぼしめしのままに』ここにこそ『真理』があり、それを信仰したものに真の自由が与えられるのではないのでしょうか。

### 第四六回 新生会祭開催

コロナ禍のブランクを経て一二月三日(金)、四六回目を数える新生会祭が四年ぶりに開催されました。復活の今年は、感染症対策として屋内での飲食・子供向けイベントは見送り、規模を縮小しての実施となりましたが、例年並みのお客様にお越しいただき、確かな復活の年となりました。

#### 例年隣町の箕郷地区よりお迎えしていた「きつねの嫁入り」行列は、屋内イベントを控えた関係で見送りとなくなりましたが、今年は、東京青梅市から「墨江町囃子連」の皆さまをお迎えしました。本格江戸囃子の出張公演ということで、それを目当てにお越しの大勢のお客様と共に、お祭りも無事にフィナーレを迎えました。



ウエルカムセンター前会場

お祭り開催にご協力いただきました、出店者の皆さま、ボランティアの皆さま、バザー品ご提供者の皆さま、関係者皆さまありがとうございます。(実行委員長 坂本 直)

### 合同慰霊祭

一月一六日(木)、榛名聖公会において合同慰霊祭が執り行われました。今年の合同慰霊祭は三年ぶりに規模の縮小といった制限をなくし、コロナ禍以前同様に多くのご遺族を迎えた合同慰霊祭となりました。

昨年九月から一年間に法人内の施設でご逝去された方々をはじめ、新生会の歩みにおいて功績を残された功労者、新生会霊廟に安置されている故人の霊をお慰めをいたしました。昼食を挟み、午後には新生会霊廟にて納骨式、無縁仏のお参りを行い、合同慰霊祭の日程を無事に終わらせることができました。

新生会と御縁の皆様様の魂の平安をお祈りいたします。



榛名聖公会にて

### 塗装ボランティア来館

令和五年八月、群馬県社会福祉協議会を通じ、「一般社団法人群馬県塗装工業会」による塗装ボランティアの応募のお知らせが届きました。居住部廊下内壁の塗装の劣化が目立っていたバルナバ館では、「渡りに船」で応募したところ、ラッキーなことに決定通知をいただき、塗装日が一〇月二五日に決まりました。

当日は晴天、金井裕会長を中心に一八名の方が参加、作業は朝八時から行われました。専門の方たちによる塗装は、築四八年のバルナバ館の壁を、美しくしかもスピーディに三時間ほどで仕上げて下さいました。塗装の範囲は、バルナバ館一階から五階の窓際の廊下の壁、実に約二二〇㎡を、刷毛やロールを使い、丁寧に塗る作業でした。



職人技が光ります

また当日は、日本工業経済新聞社、上毛新聞社、群馬テレビの取材もあり、いつもと少し違う時間が流れました。

群馬県塗装工業会では、「技術を生かして社会貢献に繋げよう」と一五年以上前から継続して行っている活動とのこと。また金井会長は「先輩たちの思いを絶やさないようにこの活動を継続していきたい」と話されました。

「職人の方たちの腕前、その活気に感動しました。」というバルナバ館の居住者の方の喜びの声も聞くことが出来ました。

「居住者の方たちが私たちの技術で快適に過ごせるように努めたい。」という熱い思いとその技に、金井会長をはじめとする一八名の方たちに、改めて心より感謝申し上げます。

そして、塗装の美しさと共に、爽やかな風をありがとうございました。



塗装終了。お疲れ様でした

### 玉川聖学院キャロリング

昨年、目頭を熱くさせて頂いていた直接交流の復活から、早一年。

今年も一二月二二日（金）、二三日（土）と、玉川聖学院の皆さんがキャロリングに訪れ、ほぼ例年通りに受け入れさせて頂きました。

まず皮切りは、デイサービス利用者を中心とした、榛名憩の園でのキャロリングです。館内放送を入れたこともあり、歌声に惹かれホールに出てくる姿も多数ありました。



皮切りとなった、フィリアの風景

続いては桜が丘三ホームへ。今回はクリスマス祝会と重なったことから、誠の園、穂和の園に分かれて行いました。

その後はコロナ禍でも、オンラインを利用して交流を続けてきた、榛名春光園のクリスマス礼拝を担当。

夕食をジョージが丘で済ませた後は、キャロリングの礼拝に続きいざ本番へ。恵泉園、新生の園に分かれたグループはエンジェルホームで合



誠の園でのふれあいのコマ



さあ本番ジョージが丘中庭で

流。そして最後はウエルカムセンターでのクリスマスキャロルです。翌日の訪問を含め、交流の時間を遮ることが罪と感じるほど、居住者と生徒さんたちの笑顔あふれる二日間となりました。



声を掛けにくいほどの熱量でした

### 「厚生労働大臣表彰」受賞

この度、恵泉園ケアサービス課チーフの関口尚利さんと、誠の園ケアサービス課の安藤直史さんの二名が、「厚生労働大臣表彰」を受賞されました。厚生労働省では、社会福祉の発展に功労のあった方に対し、毎年、厚生労働大臣表彰が行われています。

恵泉園 関口尚利さん

「居住者に居心地の良い環境を提供することを第一として仕事と向き合って三一年。憩の園、誠の園、恵泉園と渡り歩いて得られた経験と実績が評価され、この度厚生労働大臣表彰をいただきました。これからもケアに実直に、仕事にあたっていきなりたいと思います。」



恵泉園 関口尚利さん



誠の園 安藤直史さん

「表彰いただいた事、これまで支えてきてくれた皆さんへの感謝の気持ちをお忘れずに、今一度気持ちを込めて居住者の人生の最後のページを迎える日まで共に何気ない日常に彩を添えて過ごして行きたいと思いたす。」

お二人ともおめでとうございませう。これまでの新生会での働きの中で、居住者一人一人と真摯に向き合ってこられたことが、今回の厚生労働大臣表彰受賞に繋がったのだと思います。これからもお二人らしさを大切に、居住者にとって良いケアを続けていって欲しいですね。また後輩の職員にとって良きお手本であり続けていただきたいと思います。

# ホームアラカルト

## 介護付有料老人ホーム 新生の園

### リンゴ狩り

秋の爽やかな日にバスハイクとして、沼田にある原田農園さんでのリンゴ狩りに出かけました。その日は青い空が広がり、太陽が優しく輝いていました。

皆さん元気に集まり、待ちきれない様子でバスに乗り込みました。バスの中では笑顔が絶えず、出発を楽しみにしている様子が伺え、皆様おしゃべりを楽しんでいました。

原田農園に到着すると、まずは腹ごしらえ、秋の味覚、松茸御膳に舌鼓です。緑豊かな果樹園に広がるリンゴの木々は、まるで宝石のように



大きなリンゴです

見えました。皆さん一生懸命にリンゴの木を選んでいき、歓声を上げながら、リンゴを手に取りました。その笑顔は、日頃の生活の中で感じる様々な喜びや楽しさが詰まったものでした。リンゴ狩りの最中には、思いついた話や昔の話に花が咲き、皆が楽しいひと時を過ごしました。

農園の方によると、今年のリンゴは天候の影響や、雹の被害などあって、不作のようで、たくさんのおみやげとまではいかなかったようですが、収穫したリンゴたちは、最後に全員でバスに積み込まれ、帰路につきました。帰りのバスの中でも、皆さん手にしたリンゴを眺めながら、この日の楽しい思い出を分かち合っていました。



リンゴの木の下で

(中澤一夫)

## 健康型有料老人ホーム

### マリヤ館

### 秋のバスハイク

二〇二三年十一月八日、恒例の秋のバスハイクに行つてまいりました。今年は、初めてのミカン狩りです。場所は藤岡市鬼石の「木村観光ミカン園」です。



みかんがいっぱい

天気にも恵まれ暖かな陽気の中、参加者は心行くまでミカン狩りを楽しみました。



上里カンターレにて

みかんの食べ放題・お土産にみかんを一袋詰め放題でしたが、沢山採ってしまい皆さんおなか一杯になりました。

昼食と買い物に、埼玉県上里の上里カンターレに行きました。おなかの具合を心配したのですが、昼食は昼食で、皆様、思い思いに楽しんでいました。



カンターレのパン

今年は、もう一か所買い物に寄りました。ガトーフェスタハラダ本館での買い物をして帰りました。食べる事・食べるものが中心のバスハイクになってしまいました。参加者の皆様には喜んで頂けたようです。

(原孝洋)

介護付有料老人ホーム  
穂和の園・桜の園

クリスマスのお祝い

街中がクリスマス仕様になる頃、穂和の園・桜の園では毎年恒例のクリスマス祝会と玉川聖学院の学生さんによるキャロリングが行われました。

クリスマス祝会では、桜が丘の調理スタッフがひとつひとつ丁寧仕上げた華やかなクリスマスメニューに皆様大変喜ばれ、「どれも本当に美味しいわ。最後のデザートまでたどりつけるかしら？」と笑顔で召し上がっていらっしゃいました。また、職員による出し物では、加藤サブチーフの「地上の星」の歌声と共に今年一年間を写真のスライドショーで振り返りながら、楽しいひと時を過ごされたご様子でした。



メリークリスマス！



ステキな歌声です♪

そして、クリスマス祝会を楽しめた後は少しお昼休みをとり、今度は玉川聖学院の学生さんによるキャロリングが行われ、学生さんの澄み切った歌声の讃美歌と可愛らしい手作りのクリスマスカードに「素晴らしいクリスマスね！」と皆様大満足のクリスマス行事の一日となりました。

今年も皆様と楽しいクリスマスのひと時をご一緒させていただけたこと、職員一同感謝申し上げます。新年もまた皆様が健やかに、笑顔で日々の生活をお過ごしただけですように、どうぞ今年もよろしくお願いたします。

(安原円)

軽費老人ホーム  
バルナバ館

午後ティーツアー

午後ティーツアーとは、一日かけてお出掛けするツアーとは別に、午後の時間帯に喫茶店へ行き、お茶を楽しみましょうという企画で、バルナバ館では毎年恒例のツアーとなっています。今回の喫茶店はお馴染みアンジェリーナさんです。一〇月のこの時期、旬のシャインマスカットを使ったタルト、ショートケーキ、プリンアラモードの三種類の中から好きなデザートを選び、珈琲か紅茶をそれぞれ選べます。

その後は榛名の卵屋さん「卵太郎」とリニューアルオープンしたベイシアへお買い物に行ってきました。三時間程のツアーでしたが、参加して下さった方から「こんなに素敵な午後を過ごしたのは何年ぶりかしら」との声を頂き、居住者の方と職員と一緒に、午後のひとときを楽しむことができました。(松田千賀)



アンジェリーナ玄関前にて

晩秋の芸術発表会

コロナ禍、負けじと奮起し、六月に引き続き一月二四日、今年二回目の芸術発表会を行うことが出来ました。今回は居住者の方達による作品展も同時に行いました。山本様による書、三橋様による絵付け、山田様の木工細工、大山様・武様・高橋様・本間様による絵画等、秋を彩る空間が広がりました。

佐俣看護師のパワフルな司会で開会、トーンチャイムの演奏(エーデルワイス他)を皮切りに、町田様による朗読(群馬の民話他)、ヒマナスターズの演奏(恋の季節他)、岩井様の独唱(故郷の廃屋)と盛りだくさんのプログラム。最後は皆様と一緒に岩井様のリードで里の秋他を合唱し無事終了。ほのかな温かさとお晩秋の余韻が心に残りました。

(山崎祐子)



これからリハーサル、Go！



軽費老人ホームA型

榛名春光園

焼きまんじゅう屋来園

食欲の秋ー春光園おやつショップ来園の日がやって参りました。前回のクレープ屋に続き第二弾です♪

焼きまんじゅうと言えば群馬を代表するソウルフードです。一般的には一つの串に四つのみそまんじゅうが付いていますが、食事に影響が出ないよう主力は二つ串で、リーズナブル価格で販売していただきました。

県外から入居された方は、焼きまんじゅうの存在を知らない方もおり、味噌の焼ける香ばしい匂いに誘われご来店。口の周りに味噌をまわりつつ、夢中で頬張っていました。

普段、外出が難しい居住者の皆さんも気軽にプロの味を召し上がって頂くことのできるこの企画。次回は、二月一四日の一四時から「たご焼き屋さん」が来園しますー皆様のお越しをお待ちしております。(井上章子)



美味しいB級グルメに笑顔満開

秋のバスハイク

今回のバスハイクは、上毛野はにわの里公園と日本絹の里で日本の古代と近代の歴史を学び、道の駅まえばし赤城にてショッピングというコースです。参加者は職員含めて四二名。大所帯での大移動となりました。

はにわの里では、愛敬のある植輪や古墳群がお出迎え。ガイドボランティアの方々からお話を伺い学びの場となりました。天候は雨天でしたが「雨は花の父母」という言葉にもあるように、コスモス畑にとっては恵の雨となり咲き誇っていました。



はにわの里にて

昼食は、お寿司や天麩羅、釜めし等の美味しい和食に舌鼓。花より団子になる居住者も見られました。非日常的な空間の中で、生き活きたとした表情や笑顔が垣間見え、参加者全員が幸福な気分です。帰路に着くことができました。(森川明子)

養護老人ホーム

恵 泉 園

恵泉ハーモニ

ある冬の寒い日、ジョージが丘福祉文化ホールでは、寒さなんてなんのその、気にも留めない熱気ムンムンのカラオケ大会が開かれました。

以前は四階フロアにあるカラオケ機器で、気の合う仲間とカラオケを楽しんでいましたが、人や環境が変わり今ではすっかり置物になっていきます。それでもカラオケが好きという気持ちは今も昔も変わらないように、年に数回はこうしてカラオケ大会を開いています。十八番の曲を歌いたいという方はもちろん、職員とのデュエットを楽しんでいる方もいました。そんなカラオケ大会の前座



『3年目の浮気』 定番曲です

ト리는全員で坂本九の「上を向いて歩こう」。少しでも明るく、前向きな気持ちになれるようにと職員が選曲してくださいました。おかげでたくさん歌った曲の中で一番点数が高くと、気持ちよく終わることが出来ました。さまざまな歌声に乗せて奏でるハーモニは、寒さの中にもどことなく温もりのある榛名の風に乗って、思い思いの地に響き渡っています。(新井溪司)



『旅愁』 お似合いの二人です

特別養護老人ホーム  
榛名憩の園

藤の会 来園

令和五年十一月一日、立教女学院の保護者会「藤の会」の皆様が、四年振りに来園されました。

お手製の椅子カバーほか、エプロン、お手玉を拝受しました。華々しい品々に居住者の生活に彩りを添えてくださることでしよう。実際に椅子カバーの着用具合を見ていただき、次回の構想まで考えてもらいました。大切に使用させていただきます。

(下平友規)



藤の会の皆様と記念撮影



色とりどりのプレゼント



リースでピース！

(沼崎翔平)

クリスマスリースに願いを込めて令和五年十二月二日、心泉の家にて行われたクリスマスリース作りに、居住者と共に参加してきました。ご用意いただいた、ベースの飾りに対し、色鮮やかな飾りつけを選ぶ御姿からは、季節行事特有の楽しさが感じられます。自作したリースは自室前に飾り、お土産にお預かりしたリースは、フロアの見える位置に飾らせていただきました。

さて、クリスマスの色といえは、

緑・赤・白が思い浮かびますが、それぞれに意味があるのはご存じでしょうか。緑には「永遠の命」、赤は「寛大な愛」、白は「清められた魂」といった意味を持つそうです。色に込められた意味を理解すると、より飾りつけが楽しくなりそうですね。皆様のものにも、健康と共にサンタが訪れますように。メリークリスマス！

特別養護老人ホーム  
誠の園

ひとつひとつの支えの中で

今年も穏やかに皆様とクリスマスを迎えることができました。この一年を振り返ってみると、誠の園では多くの出来事がありました。こうして一年を幸せな気持ちで過ごすことができたのは、たくさんの方々のお支えがあつてのこと。スタッフの働きだけではなく、ご家族からの支援もたくさんいただいた一年でした。

誠の園では、法人内にご家族が住まわれている方も多くいらっしゃいます。日頃の面会のなかでもスタッフとのつながりを大切にしていただき、日常生活のなかで居住者として感じていることなどをたくさんお話しくださり、的確なアドバイスをいただいています。私たちの働きへの理解のなかで、労をねぎらってください。



プロ並みの作品

さる一言一言が、私たちの喜びであり支えにもなっています。

誠の園にお住いの岩井健作様の奥様である岩井溢子様はバルナバ館にお住まいです。とても明るく気さくな方で私たちのよき相談者でもあります。常にかかっていることはいか？とフロントで言葉をかけてくださるそのご厚意に甘え、ベッドカバーを探しているとお伝えしたところすぐにお手製のベッドカバーを制作してくださいました。お部屋の雰囲気のみちがえるほど明るくなり、何よりも私たちの心がとても豊かになりました。

大切なお支えのなかで、ご家族の皆様と私たちが二人三脚で歩みを進めていることに感謝の気持ちをもつて、これからも居住者の皆様の幸せと心潤うケア実践を積み重ねていければと思います。

(若林毅)



部屋ごとに違うデザイン

特別養護老人ホーム  
エンジェルホーム

今年 は ワン チーム !

今年もエンジェルホームのお正月は、原田ケアワーカーが生けてくれたきれいなお花に彩られ、華やかな雰囲気の中で迎えました。

元旦はホームから居住者数名の方と初日の出を拝みました。榛名の澄み切った空に、きれいな日の出を見ることができました。そして、居住者の方全員がホールに集まり、まずは年頭の挨拶です。職員一人ひとりが思いを語り、皆さまに挨拶させていただきました。次にお屠蘇です。今年はお屠蘇を配りました。一人ひとりと新年の挨拶を交わし、お屠蘇を飲んでいただきました。「まろやかな味だね」「もう少し飲みたい」などの声も聞かれ、お屠蘇を楽しんでいただけでした。そしてお屠蘇の後には、豪華なおせちを皆さま喜んで召し上がってくださいました。



華やかなお正月♡



両者一步も譲らず大接戦!

二日は書初めをしました。書けな... と言いつつも、それでも筆を持ち、書初めをしてくださいました。ホールに飾られた全員の思いの言葉が書かれた書初めは、さらにお正月を盛り上げてくれました。

三日は、毎年恒例の風船羽根つきです。東西に分かれて職員と居住者の方と力を合わせて羽子板で風船を飛ばします。「がんばれ!」「いいぞ!」と声援もあり、大盛り上がりでした。居住者の方の気迫と共に厄払いができたことと思います。

今年もエンジェルホームは、ワンチームで、居住者の皆さまが穏やかに過ごせる年になるよう努めてまいります。上へ上へと昇る龍が、エンジェルホームに幸運を呼び込んでくれることでしょう☆ (閑忍)

HALC自然学校

はるな自然体験クラブの活動

一〇月一三日と一〇月二〇日のお出かけ自然体験は、秋の軽井沢を巡る旅と題して軽井沢町植物園、熊野皇大神社へ出かけました。

軽井沢町植物園は、軽井沢高原に自生する植物を中心に約二万㎡の敷地に約一四五科、一六〇〇種類余りの樹木や草花が集められていて、ゆつくりと観察しながら、軽井沢の特色や研究史、保全活動を紹介する展示館も見学しました。



少し肌寒かった軽井沢町植物園

二日間合計で会員参加者が四五名、付き添いスタッフが一四名の総勢五九名が参加しました。昼食は車で五分程の軽井沢発地市場で自由行動。午後は、長野県と群馬県の県境にある熊野皇大神社へ行き見晴らし台から新生会のある榛名・高崎方面を眺めて、秋の訪れを感じる旅となりました。

一 一月 一七日と 一二月二九日、新

一万円札に肖像が使われる渋沢栄一誕生の地(埼玉県深谷市)と絹産業遺産群世界文化遺産の田島弥平旧宅(群馬県伊勢崎市)へ行きました。血洗島にある旧渋沢邸「中の家」では八〇歳頃の渋沢栄一アンドロイドが映像と掛け合い、ふるさとの思い出を語ります。午後は、田島弥平旧宅案内所でビデオ鑑賞。蚕種製造業(養蚕を行う農家へ蚕の卵を作って売る)で養蚕技術に大きな影響を与えました。二日間会員三五名、スタッフ一七名が参加して近代日本発展の幕明けを学びました。(稲垣仁)



渋沢栄一アンドロイドが語る



田島弥平旧宅前にて案内される

## デイサービスセンター フイリア

フイリア作品

感染症がまだ流行っており、以前のように外出できていない状況です。また、利用者様の中でも高齢単身者が多く、外出の機会が減っている状況にあります。

その中でデイサービスの役割として、運動・入浴・食事・交流活動等だけでなく、「心の充実」も大切だと思っております。

そんな近年、季節ごとに懐かしい行事やイベントを味わってもらおうと、職員たちが工夫を凝らし、手作りの作品の展示を始めました。利用者様お一人お一人から、「懐かしいね〜、新しいのが増えたね!」「作品が変わったって事は、季節が変わったってことだね!」など、深い関心と多くの感想の声を頂いています。

職員間では「こんなのを家で作ってきたよ」など、皆の喜んでくれる姿を想像しながら、楽しんで作品を作っています。

利用者様の中にも「私も家で作ってきたから飾ってほしいな」と作品を作ってきて下さる方もいます。裁縫の仕事をしていたり、手先が器用な方が多く、作品の出来栄えにいつも驚かされています。



作品展示 〈懐かしい夏の風景〉



レク活動 〈松ぼっくりリツリー〉

最近では、レク活動で松ぼっくりツリーを作って頂きました。皆さん、「玄関に飾るねー」などと言って、とても喜んで下さいました。

これからは基本的なサービスの充実とともに、利用者様お一人お一人の心が満たされるような新しい取り組みにも皆でチャレンジし、心温まる触れ合いと、「心の充実」を分かち合っていきたいと思えます。

(井上和也)

## ウエルカムセンター

おせち弁当 お雑煮付き

今年も一月一日（元旦）に新生会職員の希望者を対象に『おせち弁当 お雑煮付き』を提供させて頂きました。五〇食を超える沢山のご注文を頂きありがとうございました。



この「おせち弁当」にお雑煮が付きます!

お正月のおせち料理は、日本の文化や習慣、季節感を感じさせる料理です。おせちの料理は、種類や食材、形状に意味が込められており、その一つ一つが祝福や縁起を願っています。

例えば、数の子（かずの子）魚の卵を指し、多くの子孫繁栄を象徴します。見た目が小さな粒々で、これからの年に幸せな出来事が重なることを祈っています。

煮しめ（にしめ）野菜や根菜を煮たもので、長寿や健康を象徴しています。一年を元気に過ごすためのパワーを得るとされています。黒豆（くろまめ）は「黒」という色が邪気を払い、健康や無病息災を願うために食べられます。お雑煮（おぞうじ）はお正月に欠かせない汁物で、年の初めに身を引き締め、清める役割があります。地域によって具材や味付けが異なります。

おせちをつくるにあたり、料理の盛り付けや演出も重要であり、見た目にも美しさと品格が感じられるよう心掛け、独自のレシピや伝統的な技法を駆使して仕上げました。新年を祝いながら食べることで、幸福な一年のスタートを迎える大切な瞬間となります。

今年一年が新生会をご利用される皆様、働く職員にとって素敵な年となりますように。今後とも新生会ウエルカムセンターを宜しく願っています。

(長屋明)

### 新生会 合同クリスマス劇

新生会ではもう四〇年以上、クリスマスに手作りの劇でお祝いしています。桜が丘ができてからは、ジョージが丘との二つの施設群でそれぞれ上演していました。コロナ禍で必要以上の接触を避け、交流行事が少なくなつた四年間ですが、桜が丘での祝会再開を機に、新生会を横断し各施設から演者や裏方を集めてページェントを上演しようとなりました。

衣装は桜が丘、背景はジョージが丘などと、互いに技を發揮しあいます。舞台を通じ新しい発見や出会いもあり、新生会に集う仲間として本当に心強く思え、励まされました。イエスの誕生を示したあの星も二〇〇〇年の時を越えて私達を照らしています。戦禍に苦しむ人々の嘆きが聞こえてくる今、穏やかにクリスマスを迎えられることが本当に有難く思え、平和を願わずには

いられません。ひととき高いプラボーの歓声に、心震えるクリスマスとなりまして。



本番は三日連続三回公演!

### 21老福連 全国交流集会在福島

今年の21老福連全国交流集会在一二年前の東日本大震災で被災された福島県いわき地方の見学を行いました。倒壊寸前の家屋、明かりのない民家等、震災の爪痕は至る所に見られます。全体会では被災された方々の講演を聞かせていただき、当時の凄惨な状況をありのままにお話ししてくださいました。分科会は昨年と同様にオンラインでの開催となり、コロナウイルスの対応に苦慮しながらも、お一人おひとりの方と真摯に向き合っているケアの実践発表は感銘を受けずにはられません。



至る所に設置されている環境放射能測定機器

今回のテーマでもある、ここで生きていくのちと暮らしを支える福祉の力にもあるように、被災地で生きている方々の願いに沿った復興と福祉の必要性を改めて感じると共に、来年は皆様と直接お会いして交流が持てる事を切に願います。

(佐野仁久)

天真爛漫、明るく伸びやかな三人の子供を育てるやさしいパパ、家事もこなし、思いやりで妻を支える夫、この「家族愛」に満ち溢れる男こそ、デイサービス相談員の井上和也くんである。



デイサービス相談員 井上 和也さん

先ずは新生会との出会いに触れたい。販売ビジネスから社会人をスタートするが、次第に福祉の仕事に関心を寄せ、介護福祉士の実習で訪れた先が新生会だった。温かいケアの実践に感動し、彼は再出発を志した。そこで出会ったのが、現在の妻。温かく利用者を支え、たくましく働く女神に心奪われ、誰知らず内にパートナーの座を射止めた。普段はシャイな彼だが、肝心な場面では決断力も行動力

### もうひとりの私<sup>125</sup>

も(手も)早い。良きパートナーとの二人三脚は、彼の大きなエネルギーなのである。また、趣味のサッカーは、自身の表現とリフレッシュの大切な活動の一つである。チームプレーにおける意思疎通、状況判断力は、福祉の仕事にも大いに生かされている。家庭を守る姿同様、仕事への責任感・使命感も強く、自身の意見や意思をはっきり伝えるられるところも彼の魅力の一つ、自然豊かな新生会では日常的にお目見えする爬虫類や昆虫が大の苦手なのである。「ヒヤール」"お願いします"の悲鳴はなんとも頼りないが、女性職員や利用者には可愛がられながら、支えしてもらえないのも人徳である。物腰やわらかく、だれにも温かく接する彼は、常に謙虚であり、思いやり「友愛」に溢れている。これからも福祉の現場に愛の種をまき続けてくれるだろう。

### 新生会 人紹介

- ①出身地 ②職種 ③趣味・特技
- ④好きな有名人 ⑤自分にとって一番の贅沢は
- ⑥好きな言葉

### 法人本部

島田 春菜 (シマダ ハルナ) 27



- ①群馬県
- ②財務部 財務経理課
- ③Snowman
- ④沖縄旅行
- ⑤人生一度きり

### 「誕生日誌」

・福田 結逢  
(ふくだ ゆあ) ちゃん  
令和5年11月15日生まれ  
(誠の園ケアサービス課  
福田 晃司さん 第2子)



# このひと

榛名春光園  
原 利夫さん  
(八八歳)



原利夫さんは昭和一〇年の生まれで、今夏、米寿を迎えられた。地元中室田で育った七人兄弟の六番目で、女優の吉永小百合さんのファンである。ついでに申し添えれば、原慶子新学生会理事長の従兄妹でもある。

さて、高崎市立短大（現高崎経済大学）を卒業後、法政大学で学ばれた原さんは、榛名町立第四小学校（当時の榛名山小学校）を皮切りに、六〇歳の定年を迎えられるまで小学校専一で教員を務められた。

ご本人からお話を伺うと、学生時代に教育実習で小学校へ行つた際、それが楽しくも、やり甲斐があると感じられたことが教育の道に進まれるきっかけだったそうである。

生徒を個性ある存在として見て育てることを中心に心掛けられてきたと仰る原さんだが、教員になったばかりの頃は情熱が勝ちすぎて、青春学園ドラマよろしく、教育的な理想を求めてしまいがちな面もあったそ

うで、今振り返れば、頬を赤らめることもあったという。そんな原さんは、学校では終始一貫、子供たちのことばかりを見ては考えていたそう

で、テストの採点などの仕事は自宅に帰ってからされていたという。

生徒にとって身近な存在である学級担任から校長先生までを務められた原さんだが、今でも思い出すのは、夏の臨海学校へ毎年生徒を引率して訪れたことや、当時、ロシアの宇宙技術の進歩に驚いた政府が数学教育の向上を目指すに実施したプロジェクトの研究指指定校に勤めていた学校がなり、研究発表をしたこと。また、道徳教育が教科として位置づけられ、指導内容や指導方法を研究したことなどだという。

思わず、「先生も大変だなあ」と思っていたのは、今では懐かしい思い出になっているのだが、臨海学校で生徒たちと花火を上げた時、夏の夜、臨海学校では各学校で毎晩花火が打ち上げられるため、近隣の家から花火の音への苦情が来て謝りにいったことである。

そんな、生徒のために教育一筋で生きて来られた原さんは、今年の秋、めでたくも「瑞宝双光章」に叙せられた。ご本人曰く、「予想だになかったことなので吃驚した。米寿だったからかなあ。」と、破顔一笑された。

# ひとの和

清泉美容室『リアン』 美容師

濱名 美咲さん



清泉美容室『Pod』が二〇二三年春に惜しまれつつも閉店し、新生会では新しく美容師の濱名美咲さんを迎え入れ、気持ち一新、内装も一新して、二〇二三年夏に清泉美容室『リアン』が開店しました。あつという間に評判は新生会内に広がり、徐々にお客さんが入ってきてくださっているそうです。

濱名さんは榛名町で生まれ、高校卒業後は通信制の学校に通いながら美容室で勤めていました。在籍も二〇年を超えて、そろそろ独立がしたいと考えていた矢先に、新生会で勤めている母からの誘いがあり、この度の御縁となりました。店名の『リアン』は、フランス語で絆を意味し、濱名さんの人と人との絆を大切にしたいという想いがよく表されていると思います。絆を大切にすることで、来て下さるお客さんのニーズに 대응することと語り

ます。もちろん、美容室ですの散髪が目的にはなりません、お客さんによっては、髪の毛を切ってもらいな

がら話がしたい、施設という日常から離れてひと時を癒されたいということも求めています。『リアン』に行つて良かったと思ってもらえるように、そういったことに配慮しながら、散髪以外の時間も大切に行っているそうです。視覚的な取り組みとして、店内の内装は、明るいイメージにしたのと白を基調とした北欧インテリアのような雰囲気、来店されるお客さんの心を癒しの空間に誘います。

新生会で美容師として働いて半年が過ぎました。ここまで働いてみての忌憚のない感想を聞かせていただきました。濱名さんは、一切の不満もなく、独立して一人でやらないといけない中で、周りの方に助けていただきながら楽しく仕事が出来て嬉しいです、とお話ししてくださいました。新生会との御縁と日頃の感謝を、美容師としてできる限りお客さんに還元していきたいとも語って下さいました。

今日も素敵な笑顔と親しみやすい性格で、『リアン』は明るい雰囲気溢れていることでしょう。ぜひ皆様も『リアン』をご利用いただき、虜になつてみてはいかがでしょう。

文 芸

梅香ギャラリー

絵画教室作品展



アルルの跳ね橋 (武公子)



魚野川下倉城の流し (小幡正昭)



座敷わらし (渡辺香代子)



ふれあい公園 (豊永清)



哀しみ (武公子)



新潟魚沼を走る春の只見線 (小幡正昭)



赤いバラ (渡辺香代子)



健康の小路 (豊永清)



赤城の六月覚満淵 (五味英子)



最初のクリスマス (武公子)



魚沼古民家と紅葉 (小幡正昭)



子犬の兄弟 (五味英子)



ゴーヤ・ナス・オクラ (五味英子)

詩 歌

残月を仰いで歩くうめロード  
八十路翁に心地良い秋風がふく

丸山 輝雄

笠井 昭次

日溜りの覚えず恋しき小春かな  
薄日さえ風に追われる師走かな  
冬の陽の頼りなげなる温みかな

福田 絃晴

霜月の紅葉一樹や炎えさかり  
雪冠り冬をいそぐか遠浅間



ケアに生きる (151回)  
新生会診療所 事務員  
大塚あゆみ

「事務職として、人の支えとなる仕事を携わりたい。」そんな思いを抱きながら学んだ学生時代。縁あって新生会に就職し、多くの方々の助けを得ながら勤務し、今日に至ります。私が所属する新生会診療所は、昨年度健康管理部が新設され、

以前にも増して自身の役割について考えるようになりました。医療事務を担当する私は、レセプトを作成し、患者さんの医療費を計算する仕事を始め、窓口業務等を担当しています。新生会診療所の目指している「新生会を利用される方々が、日々の暮ら

しを安心・安全で快適に過ごしていただけるように。利用者を支えるスタッフ一人ひとりが健康で、安心して仕事に臨めるように。」そのために、私にできることは何か。新生会診療所に足を運んでいただいた方の気持ちが生けたり、音楽を流したり。院内外を清潔に保つため、こまめな清掃を行ったり。依頼を少しでも迅速・的確に処理できるように努めたり。そんな小さな取り組みを日々一つひとつ、診療所スタッフ皆で協力しながら積み重ねています。今後は新生会、新生会診療所のスタッフの一員として携われることに誇りを持ち、日々謙虚な気持ちで職務に臨み、これまで私を受けた思いやりへの恩返しをしたいと思えます。今日も「お大事にしてください。」の一言に心をこめて。

月を見て附が来るぞと確信す  
人生の終着駅は天国ぞ  
止まり木は誰もが探す宝なり  
山峡の湯宿に点す秋灯  
木道を上れば落ちる木の実かな

オーサム

来る春に元気な花を咲かせよと  
言い含めつつ球根植える  
久々のお出掛け行事に心淨き  
雑踏の中我も身を置く  
橙に並び吊るされ柿すだれ  
秋の陽を浴び甘くなりゆく

マリヤ シュガー

新生誌

（10月）

- 6日 職員採用試験
- 3日 職員採用試験
- 28日 陸会日帰り旅行 東京デイズ ニーランド・シー 32名参加
- 27日 はるな自然体験クラブ お散
- 26日 歩自然観察会 午前の部・7名参加 午後の部・5名参加
- 24日 パラマウントベッド株式会社 ウェブ配信研修 講師・誠の園施設長、他
- 20日 職員採用試験
- 17日 安全運転管理者等法定講習（高崎市文化会館 2名出席）
- 14日 はるな自然体験クラブ お出
- 13日 かけ自然体験『秋の軽井沢を巡る旅』31名参加
- 12日 道路愛護清掃
- 6日 職員採用試験

（11月）

- 6日 新生会祭
- 3日 職員採用試験

（12月）

- 9日 陸会日帰り旅行 劇団四季『アナと雪の女王』観劇 30名参加
- 7日 令和5年度給食従事者研修会（高崎市総合保健センター 1名出席）
- 10日 はるな自然体験クラブ お散
- 16日 歩自然観察会 午前の部・6名参加
- 14日 誠の園空調設備更新工事及び屋上防水改修工事現場説明会
- 17日 合同慰霊祭並びに納骨式
- 17日 陸会日帰り旅行 東京観光フリー 12名参加
- 17日 はるな自然体験クラブ お出
- 20日 かけ自然体験『近代日本経済の父渋沢栄一と田島弥平を巡る旅』22名参加
- 24日 康診断
- 29日 はるな自然体験クラブ お出
- 22日 特定業務従事者職員健康診断
- 11日 はるな自然体験クラブ お散
- 7日 歩自然観察会 午前の部・2名参加 午後の部・3名参加
- 7日 玉川聖学院によるキャロリング 中・高校生28名、引率教員13名来会
- 7日 陸会忘年会
- 1日 クリスマスリース作り 於…
- 30日 心泉の家
- 30日 はるな自然体験クラブ お散
- 7日 歩自然観察会 午前の部・5名参加
- 7日 歩自然観察会 午前の部・5名参加
- 8日 第2回全国福祉経営研究交流会（ワークピア横浜 4名出席）
- 11日 はるな自然体験クラブ お散
- 22日 歩自然観察会 午前の部・2名参加 午後の部・3名参加
- 22日 玉川聖学院によるキャロリング 中・高校生28名、引率教員13名来会
- 22日 歩自然観察会 午前の部・4名参加

外堅志援団

—新生会後援会便り—

新生会を支えてくださる方々へ二〇二三年度版感謝状をお送り致しました。皆様から温かいご支援をお寄せいただき心から感謝申し上げます。新たな年を迎え、本年にご多幸がありますようお祈り致します。HALCセンター建設のための特別募金累計16,797,128円（2023年12月末日現在）

新生会後援会加入のご案内

- 個人会員 年間会費 1口 1,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。
- 法人会員 年間会費 1口 10,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。

募金の結果や使途につきましては小冊子「感謝録」にて毎年報告させていただきます。

寄付方法

郵便局からの振込み 振込口座 00160-6-48594 加入者名 新生会後援会  
銀行からの振込み 群馬銀行室田支店普通預金0075469 名義 新生会後援会会長 中澤宏則

所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付くださる際にその旨を申し出てください。社会福祉法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。

ホームページ <http://www.sinseikai.org/>  
E-mail [human-office@sinseikai.org](mailto:human-office@sinseikai.org)

編集後記

二〇二四年がスタートしました。昨年はコロナ禍でしばらくストップしていた法人行事が再開され、創立記念式や職員旅行などもコロナ以前のよう

に開催することができました。少しづつではありますが、人と人との繋がりを感ぜられる機会が増えてきたように思います。私事ですが、新生会に就任して今年

新生 第46巻 冬号  
発行日 令和六年一月二〇日  
編集兼 社会福祉法人新生会  
発行人 原慶子  
〒370-3347 群馬県高崎市  
中室田町五九八三  
電話 〇二七三七四 一五一一  
表紙の写真  
夢と現（アブジェクション）  
一八〇×二七〇cm 二〇二三